

2024年度（令和6年度）幼稚園自己評価表

最終更新日	2025年（令和7年）3月28日
-------	------------------

園番 6	福山市立手城幼稚園
------	-----------

1 幼稚園教育目標

遊んで 学んで 育ちあう てしろっ子

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

「一人一人が輝き 笑顔いっぱいの手城幼稚園」

- 幼児がおもいきりあそべる幼稚園
- 幼児が安心できる清潔で安全な環境
- 幼児とともに深く学びあう教職員
- 家庭・地域・小学校としっかり連携する幼稚園

3 目指す幼児像

笑顔いっぱいの幼児

- 感性豊かにのびのびと遊ぶ幼児
- 思いを伝え合いながら遊ぶ幼児
- 自分で考え行動する幼児

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園のある地域は、市のほぼ中央部で、商業施設や住宅が密集しており交通量が多いため、幼児が安心して遊べる場や自然に触れて思いきり遊べる環境が少ない。また市外からの転居や核家族化により、子育てについて交流・相談する機会も少なく、そのような場を求める保護者も多い。そのようなことから、幼稚園が安心・安全な場となること、家庭と幼稚園と地域とが一体となって、幼児の育ちを保障していくことが求められている。

近年園児数は減少しており、大きな集団でのダイナミックな活動は難しい面もあるが、新しい環境に慣れにくい子や、人とのコミュニケーションがとりにくい子などの入園が多くを占め「少人数の中で」少しずつその力を育ててほしいと願う保護者が増えてきている。

5歳児は、進級した喜びを感じ友だちを誘い合って一緒に活動することを楽しんだり、年少児の様子を気にかけてたりする姿が見られる。また、創意工夫をしながら、新しい遊びを生み出す姿も見られる。療育施設との併行通園をする子も多数おり、中には、環境の変化に敏感で、新しいことに対して不安を感じやすく、行動を躊躇する幼児もいる。

4歳児は、本年度3名の入園で、2名は初めての集団生活となる。新しい環境への不安は見られるものの、自分がしたい遊びを見つけて遊ぶ姿が見られたり、新しい環境にかかわったりしようとする姿が見られる。基本的生活習慣の定着については個人差が大きい。

地域の幼稚園教育に対する関心は強く、さまざまな行事を通して多くの人たちとの出会いがあり、温かな支援と協力が得られている。また「ことばの相談室」や未就園児の会「るんるんランド」など、地域内外からの参加もあり、子育て相談の拠点としての役割も担っている。しかし、3年保育を希望する人、仕事をもつ人などが増えており、他施設への入所・入園が増えていることが考えられ、3歳児の未就園児の会への参加人数も減少の傾向がみられる。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重 点 目 標	設 定 理 由
○遊びを通して、主体的に学び、かわろうとする幼児を育てる。 ○保護者の不安に応え、課題や悩みを共有する関係を築く。 ○「ことばの相談室」や療育施設等と連携をしながら、個に応じた取り組みを行う。	・遊びを通して、一人一人の幼児がしっかり考え、自信をもって行動でき、友だちと力を合わせる大切さや最後までやりぬく喜びを感じ取ることができるようにしたい。そのために、一人一人の発達の特徴を共通理解すること、それぞれの課題や特性に応じた配慮や関わり、環境構成などの支援体制を充実させること、個から集団へ広げていくための保育内容を構築することを通して、それぞれの持っている力をさらに伸ばし、その個性を大切にしながら、たくましく生きるための心と体を育てていきたいと考える。

	3年間の目標	1年間の目標 (本年度2年目)	具 体 的 な 方 策	評価	評 価 結 果
					○＝反省や課題◎＝改善のための方策
生きる力の基礎	様々な遊びや動きを楽しむことを通して、しなやかな体・コミュニケーション能力を育てる。	自ら進んで、体を十分動かして外遊びや運動をしようとすることや、共通のイメージをもって会話のやりとりを楽しめる工夫をし、教師や友だちの話に興味や関心をもち、聞いたり、話したりする幼児が増える。	- 毎月のねらいをもとに、好きな遊びの時間に、室内外で自ら体を動かして遊ぶことができる環境を工夫する。 - 毎日の朝の会や帰りの会等の場を通して、「自分もしてみたい」と思える活動が広がる振り返りを工夫し、話を終わりまで聞いたり、思っていることを言葉で伝えたりする経験を繰り返す。	B	○幼児の実態から、幼児達だけで遊びを進めていくことが難しいこともあったので、幼児の主体性を考慮しながら職員が遊びに加わっていった。すると、鬼ごっこやサッカー、ごっこ遊びなど友達を誘って遊ぶ姿や遊びの継続性が見られるようになった。 ○振り返りの時間に自分の意見がみんなの場で言えるような場を設定し、自分の思いを伝える経験をすることができた。 ◎幼児の見取りを行い、好きな遊びを十分楽しめる環境の工夫や教師の関わりについてより検討する。 ◎年間を通して、日々の遊びの中で体づくりができるよう遊びの検討をする。
	食育を通して、健康な心と体を育てる。	自分に合った量を自ら選び食べようとする子が80%になる 戸外遊びを進んでし、しっかり体を動かして遊ぶようになる。	- 友たちと一緒に食べると楽しい、遊ぶと楽しいと思えるような雰囲気作りや環境づくりをする。 - 定期的に家庭と連携し、家庭と食について共有する。	A	○体調に合わせて食べられる量を考え配膳し、自分で選べられるようにしたので、苦手な物も食べてみようとする姿や完食する幼児が増えた。 ○幼児は友達の刺激を受けながら意欲的に食べ、給食時間を楽しんでいる様子が見られるようになった。 ◎食への興味が持てるように、給食メニューを参考にどのような動きがあるか知らせたり、園での様子を保護者に伝えたりし、家庭でも食べることの楽しさが味わえるよう雰囲気づくりを提案していく。 ◎園の菜園活動を十分活かせる工夫をする。
教師の役割	幼児が主体となる環境づくり・遊びの支援を通して力量を高める。	幼児理解を深め、一人一人の特性を理解し、発達段階に合ったねらいのもと、興味をもって意欲的に活動し、満足感が味わえる環境づくりと支援を行う。	- 幼児の育ちにつながる環境づくりに視点をおいた毎日の保育の振り返りを行う。 - アドバイザーを招いての研修やエピソード研修を学期に1回行う。	B	○幼児の様子を出し合う中で、幼児の見取りや遊び込める環境構成の在り方を、職員で検討し取り入れることができた。 ○定期的にアドバイザーを招いての研修を行ったことで、個を継続的に見取り、個が集団の中でどう活躍していけるかなどを全職員で考えることができた。 ◎環境づくりについては、振り返りやカリキュラムを通して話し合い、幼児の育ちによりつながる環境づくりに努めていく。
信頼される幼稚園	園活動を通して、地域・保護者と共に創り上げる関係を築く。	教育内容について、細やかな情報を発信し幼稚園教育への理解を進め、活動がよくわかる保護者アンケート肯定的評価が90%以上になる。	- 幼児の育ちを保護者にわかりやすく具体的に知らせるため写真とコメントを掲示する。 「幼稚園だより」・「クラスだより」・HPを毎月1回以上実施・更新する。 - 未就園児の会を毎月1回実施し、遊びの場の提供と子育て相談を行う。 - 現状を考慮しながら地域行事に積極的に参加すると共に、地域だよりで交流内容等を発信する。	B	○スマート保育の導入があったことで、カラーの写真が入り幼児の様子を伝えることができた。 ○未就園児の会で、外部講師を招き、子育て相談ができる場を提供できたことはよかった。 ○利用人数は少なかったが、園庭開放をし、幼稚園を身近に感じてもらえたり、遊びの場を提供できたりしたことはよかった。 ◎WEL-KIDSでより分かりやすい文章と写真の見せ方の工夫をしたり、更新する日や週を決めておいたりすると、よりたくさんの配信ができる。 ◎情報発信の工夫をしていく。